

令和二年二月

教育行政執行方針

令和二年第一回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

令和の時代を迎えた今、我が国では、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、Society 5.0の到来といった社会の変化に伴い、教育を取り巻く環境が大きな変化を見せています。

こうした中、中央教育審議会では、新しい時代の初等中等教育の在り方について諮問を受け、これからの学びを支えるICTや先端技術の効果的な活用、義務教育九年間を見通した教科担任制の在り方等について、審議が進められております。

教育委員会としましては、これらの動向を見極めながら、令和二年四月から全面実施となる新学習指導要領の着実な実施を図ると

ともに、市民一人一人が生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

以下、令和二年度の重点項目について申し上げます。

はじめに地域とともにある学校づくりについてであります。

本市においては、地域と学校が連携・協働体制を構築し、地域全体で子供たちの育成を図る「地域学校協働本部事業」に取り組んでまいりました。

今後は、よりきめ細やかに地域の実情を把握し、将来を見据えて持続可能な取組とするため、学校コーディネーターの配置を段階的に進め、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推

進により、登別らしい特色ある教育活動を展開してまいります。

次に学校教育についてであります。

幼保・小・中連携については、今年度より北海道教育委員会による「幼児教育と小学校教育の接続の円滑化モデル事業」の指定を受け、相互参観や合同研修、スタートカリキュラムの作成などの取組を進めてまいりましたので、推進リーダーを中心にこれまでの取組を効果的に反映させ、引き続き事業の推進に努めてまいります。

小中一貫教育については、各中学校区において、義務教育九年間の系統性・連続性に配慮した創意ある教育活動が展開されておりますので、取組の成果と課題を検証するとともに、実践交流の充実が

図られるよう支援してまいります。

また、キャリア教育については、登別青嶺高等学校や登別明日中等教育学校、日本工学院北海道専門学校と連携するとともに、職場訪問や職業体験を通して地元への愛着や理解を深め、児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた取組を推進してまいります。

学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果から、引き続き算数・数学に課題がみられますので、登別市教育課程課題検討委員会における無回答率や誤答の実態把握、分析結果を活用し、個に応じた指導や授業改善など、各学校における教育実践の充実を図られるよう支援してまいります。

また、学校図書館については、学校司書・司書教諭・図書ボランティア

ティアが中心となり、小・中学校が連携した取組や児童・生徒が主体的に取り組む図書委員会の活動など、さらなる読書活動の充実が図られるよう促してまいります。

英語教育については、小学校学習指導要領における外国語活動や外国語科に対応するため、これまでの移行期間中に標準時数の確保や教員の指導力の向上に取り組んでまいりました。

今後も、児童・生徒の英語学習に対する関心・意欲が向上するよう、小学校四年生全員の英検ジュニア受験、中学校生徒に対する英検三級検定料の半額補助を実施するとともに、外国語指導助手の活用や環境整備に努め、コミュニケーションの素地・基礎となる資質・能力の育成を図ってまいります。

教職員の指導力の向上については、登別市教育実践研究奨励校を指定し、各校の研究・研修活動を支援するとともに、北海道教育委員会が指定する「学校力向上に関する総合実践事業」を活用し、小學校高学年の教科担任制の在り方を研究してまいります。

また、学校における働き方改革については、勤務時間の管理や業務の効率化、部活動の適切な活動時間と休養日の設定、部活動指導員の配置を進めるなど、教員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務することができる環境の整備に努めてまいります。

情報教育については、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図るため、国の「GIGAスクール構想」に基づき、校内通信ネット

ワークを整備するとともに、年次的に児童・生徒一人一台の端末を整備してまいります。

また、各学校の情報教育推進教員を中心に学習ルールの整備や授業実践事例の蓄積を進めるとともに、授業公開や研修会を実施するなど、教員によるICTを活用した授業力向上の取組を促してまいります。

豊かな心の育成については、これまでも主に総合的な学習の時間や道徳科の授業において、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、実体験を重視した実践を継続してきましたので、今後も自然体験や社会体験、ボランティア活動、外部指導者を招いての講演など、各学校の特色ある教育活動を積極的に支援してまいります。

体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校では全国水準を超える結果を維持しており、中学校では全国平均を下回っているものの改善傾向にありますので、体育科のさらなる授業改善やスポーツ指導員の派遣を通して、児童・生徒の体力と運動能力の向上に努めてまいります。

また、望ましい生活習慣の確立のため、「ノーゲームデー」や「早寝早起き朝ごはん」の取組を啓発してまいります。

安全教育については、地域や小・中学校が合同で行う避難訓練や一日防災学校をはじめ、交通安全指導や防犯教室、情報モラル教室・薬物乱用防止教室など、児童・生徒が状況に応じて適切に判断

し、行動する力を身に付ける取組を引き続き支援してまいります。

学校施設については、幌別東小学校と幌別中学校校舎の耐震改修工事を実施いたします。

学校の耐震化は令和二年度をもって完了となりますので、今後は「教育施設等長寿命化計画」を基に、修繕や改修を行いながら、安全・安心な施設整備に取り組んでまいります。

不登校・いじめ対策については、引き続き学校と教育委員会が連携を密にしながら、情報交流や教職員研修により教員の生徒指導力の向上を図るとともに、教育指導専門員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員による相談、適応指導教室における登校支援の充実を図るなど、不登校解消といじめ根

絶に努めてまいります。

学校の適正配置については、児童・生徒にとって望ましい教育環境を整備するため、令和元年度は幌別中学校区と西陵中学校区において、保護者や地域との意見交換会を開催するなど、具体的な教育上の課題を整理してまいりました。

令和二年度は、登別中学校区において意見交換の機会を設け、丁寧な議論を進めるとともに、これまでの進捗状況を踏まえ、「登別市学校適正配置基本方針」に基づき、取組を推進してまいります。

特別支援教育については、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図るため、介助員や学習支援員を適切に配置するとともに、

各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、義務教育九年間の連続性を配慮し、きめ細やかな教育相談や就学指導が行われるよう努めてまいります。

次に、社会教育についてであります。

「第五次社会教育中期計画」に基づき、市民一人一人が、健康で安心できる生活の中で、生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、各種施策の推進に努めてまいります。

ふるさと教育については、郷土に誇りと愛着を持ち、積極的に

地域社会と関わる人材の育成を図るため、関係機関や団体と連携し、郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実に努めてまいります。

また、アイヌの歴史や文化に触れ、理解が一層深まるよう、市内公共施設にアイヌ文様のタペストリーを展示するとともに、郷土資料館の展示をリニューアルするなど、アイヌ文化に対する興味・関心が高まるよう努めてまいります。

家庭教育については、「家庭教育学級」を開設し、保護者を対象とした子育てに関する情報提供や活動支援の充実に努めてまいります。

また、家庭や地域の協力を得て実施している「通学合宿」や「放課後子ども教室」、「家族の週間」などの事業については、子供

たちが集団の中で基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、地域社会の中でのびのびと健やかに成長するように取り組んでまいります。

青少年の健全育成については、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力のもと、登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導、「こども一〇番スタデイちゃんの家」の取組など、多くの目で子供を見守る環境の整備に努めてまいります。

文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や関係団体と連携して、市民の文化活動への参加や芸術の鑑

賞機会の提供、各種スポーツ教室・大会の開催などの取組を推進するとともに、本市の歴史や文化が継承されるよう、市民意識の醸成に努めてまいります。

令和二年度は、三市三町で実施する西いぶり定住自立圏文化事業において、日本の伝統文化に触れるため、「上方落語」の公演を本市で開催します。

また、令和二年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年でありますので、障がい者スポーツへの理解が深まるよう、パラリンピックの車いすテニスの元日本代表選手や陸上競技の伴走者を招き、市民や児童・生徒を対象とした講演会や実技講習会を開催します。

学校給食については、引き続き郷土を実感できる食材を取り入れた献立づくりや栄養教諭による食育指導を通して、食に対する関心を高めるとともに、衛生管理の徹底を図るなど、安心・安全な給食の提供に努めてまいります。

また、給食管理システムを導入し、効率的な給食事業の運営に努めてまいります。

図書館については、ボランティアとの協働による郷土資料の収集とデジタル化、郷土史関連講座の開催、アイヌに関する文献収集を進めるとともに、引き続きブックスタートやライブラリースタート、おはなし会、「ビブリオバトルの夕べ」を実施するなど、読書や文化に親しむ環境づくりを推進してまいります。

以上、令和二年度の重点項目について申し上げます。

令和二年は、市制施行五十周年となります。

教育委員会としましては、将来にわたって輝き続けるまちの実現を目指し、登別市教育大綱を基本として、ふるさとの教育資源を積極的に活用し、豊かな個性や人間性をもつ人材の育成に全力で取り組んでまいります。

市民の皆さん並びに議会議員の皆さんのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。